



平成17年11月17日

このえ町

第71号

発行／九重町議会

〒879-4803
大分県玖珠郡九重町大字後野上8-1

☎ 0973-76-3814

編集／議会広報編集委員会
印刷／尾花印刷有限会社

議会だより



保存会となった小倉神社の町田楽

9月定例会

- 第3回定例会 補正予算の主なものや質疑Q&A P.2
- 工事請負変更契約・議案 P.3
- 災害や大型事業の財政状況 P.4
- 陳情 P.5
- 一般質問 7名 P.6 ~ 12
- 私のひとこと 南山田 吉光マリアさん P.13
- こんな町にしてほしい 東飯田 小幡 邦代さん
- こんな町にしてほしい 野上小学校6年 梅木久美子さん P.14

平成17年 第3回定例会

9月
定例議会

◎災害関係	359,044千円
農林水産業施設災害復旧費	109,738千円
内訳 公共土木施設災害復旧費	249,306千円

◎基金費	178,563千円
財政調整基金	42,000千円
内訳 町有施設整備基金	436,563千円

◎土木農林関係	108,826千円
《主な事業等》	
四季彩道路舗装工事	39,000千円
北方線道路改良工事	10,000千円
バイオセンター	24,325千円
棚田保全	12,590千円

一般会計 準正予算の主なもの（歳出）

平成17年第3回定例議会は、9月21日から10月5日までの15日間開催され、議案22件、陳情4件を慎重に審議いたしました。補正予算は一般会計7億7,126万9千円を追加して76億8,090万4千円となりました。又、特別会計では国民健保会計で1億3,700万4千円を追加し、総額で3億1,364万4千円となりました。介護保険会計では974万4千円を追加し10億8,128万4千円となりました。



補正予算質疑

Q & A

Q バイオセンター苗の売り払い収入が1,750万円補正で計上されている。昨年よりも多いが大丈夫か。

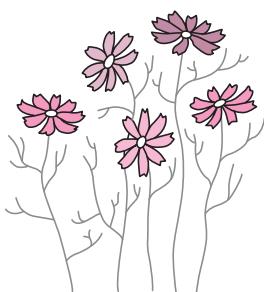
A 見込みで計上したが、災害等も発生しており心配している。

Q 土木費で6,200万円を補正計上しているが、その内訳は。

A 四季彩道路の天ヶ谷からあいのせ茶屋橋まで3,900万円、北方線の白鳥神社からの改良工事に1千万円などです。

Q バイオセンターの売上げで大分の業者にはどれぐらいあるか。

A 大分の業者に約1,250万円です。





みなさん方の陳情は こうなりました。



陳情

● チャムチャムクラブ代表、佐藤忍氏からの野上地区親水公園の改善を求める陳情については、

河川敷地内にある親水公園は道路からの見通し

も悪く、進入路もよく分からぬ状態で、町民の多くが公園の存在を知らず、設置されている遊具も整備が必要であり、又貴重な憩いの場所であることから、この陳情については採択することで意見の一一致を見ました。



改善が求められている、野上親水公園

● 串野上区長、佐藤一幸氏外4名からの第2地蔵原川の河川改修整備の陳情については。

局地集中豪雨は、九重町に甚大な被害をもたらす

し、生命財産が危険にさらされました。二度とこのような被害を起こさないために早急に河川改修整備が望まれることから、この陳情は採択すること



老朽化した、奥野バス停

● 奥野区長、永楽棟喜氏からの奥野行政区内的奥野バス停待合所の建設については。

このバス待合所は、昭和45年建設されたもので老朽化が著しく、又バスの停車場より離れており、高齢者の利用に不便であり、住民の利便性や安全性を考えるとバスの停車位置に変更し建設するこ

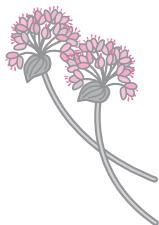
とは必要であり、陳情は採択することで意見の一一致を見ました。

● 北恵良二区長、遠江清美氏からの、町有溜池の修復工事を求める陳情については。

土地の所有者は、九重町となつてゐる。「溜池」所有者(善応寺水利組合)と十分な協議が必要なため、継続審査とすることで意見の一一致を見ました。



修復の要望がある、善応寺溜池



◆水道特別会計

野上簡易水道、

集中豪雨で

大被害を受ける。

1億3,300万円の
災害復旧事業費を補正。



7月10日、県道飯田高原中村線の被害状況

◆工事請負変更契約に質疑

◎契約対象

宝泉寺栗原線BPその4

◎契約金額

〔変更前〕 5,502万円



〔変更後〕 6,528万9千円

◎契約の相手方

新成建設株玖珠支社
支社長 松尾修二

- 職員の分限に関する手続及び効果に関する条例の一部改正については。

職員の意に反する分限
処分を行う場合は、その

Q 工事請負変更契約で1千万円を超える変更は大き過ぎるが増額の主要因は。

A 路肩の工法が決定していなかつたために、今回路肩部が増額となつた。

Q 当初設計に含まれていなかつたことになるが、新設道でもあり、路肩部が含まれない設計等は常識的考え方がない。今後は慎重に取り扱うべきだ。

◆議案可決

●九重町国民保護対策本部及び緊急対処事態本部条例の制定については。

日本における外部からの武力攻撃事態への対処。

住民の生命、身体及び財産を保護し、住民生活に及ぼす影響を最小限にする為の条例制定であり、適当であるとの結論に達しました。

●九重町国民保護協議会条例の制定については。

町において保護計画を策定し、この協議会で計画の内容検討を行うもので、この条例制定は適当であるとの結論に達しました。

●九重町過疎地域自立促進計画の一部変更について

過疎地域自立促進計画書の事業内容に、泉水グリーンパーク整備事業、四季彩ロード線道路舗装工事、北方線道路改良舗装工事、九重町いきいきネットワーク整備事業を追加するもので、いずれの事業も町民の利便性や観光振興を図る上で必要なものであり、本計画の一部変更については適当であるとの結論に達しました。

議会の動き

《7月》

1日	玖珠地区農業技術普及推進協議会総会
3日	九重町消防大会
4日	県道田野庄内線道路整備促進期成会総会
11日	（庄内町役場） 玖珠郡老人養護組合 議会（亀鶴苑）
12日	全員協議会
14日	集中豪雨副知事・土木部長等陳情（正副議長）
15日	災害現地調査（建設産業常任委員会）
20日	全員協議会
22日	湯布院町議会正副議長が災害見舞来町夕べ
26日	議会運営委員会
27日	自営者育成後援会総会（玖珠農業会）
1日	みどりの基金「自然学校開校準備室設置」の協定書調印式（県庁知事室）
5日	議会広報委員会研修（市町村会館）
4日	団体町村議会議長会合
同会議	会及び事務局長会合



7月10日の集中豪雨 「激甚災害指定」受ける



大被害を受けた、県道飯田高原中村線

上簡易水道）除く農業土木（町道・野
旧費は、国庫負担率の嵩上げなどの特別
な支援策が受けられることになった。

地方交付税 204,361千円追加補正。

前年対比で、113,888千円の交付増。

要因は「基準財政需要額」の伸び、その中でも社会福祉費、
高齢者福祉費と臨時財政対策債発効額の減が主な要因。

● 鳴子川渓谷周辺整備事業

現状における財源の目途

地方団体の円滑な財政運営に資するために財政措置を講じる。としている。地方公共団体は通常の地方債の充当に加え、単独事業に係る一般財源の軽減を図る。としている。

● 地域再生事業債とは

は、後年度標準事業費方式により地方交付税の基準財政需要額に参入するとしている。



この吊り橋関連の総事業費は約19億5,000万円で、起債が17億8,000万円、内訳として過疎債が約10億円で12年

間償還、地域再生事業債が約8億円で10年償還となつていて。今後10年間にが吊り橋関連の起債の償還となる。現在約4億円を償還、平成23年度で約6億1,500万円の償還となる。

今年度は7億4,000万円の事業費を計上。内訳として起債が7億5,000万円、施設整備基金3,000万円、一般財源500万円。起債約7億円の内訳は、過疎債2億円、地域再生事業債5億円。

入場料収入も30万人あつたと仮定すると約1億3,000万円が見込め
るが、財政的な悪化をまねかれないようにしなければならない。

30日	27日～28日	22日～23日	16日	5日	11日	16日	30日	29日	28日	26日	22日	21日	15日	14日	13日	8日	1日	31日	30日	15日
別府市	議会広報先進地視察研修（長崎県時津町）	九重ふるさ祭り	用牛）大分市	議会運営委員会	”	大分県畜産共進会（乳	教育民生常任委員会	広域議会（日田市）	総務財政常任委員会	建設産業常任委員会	本会議（一般質問）	本会議（閉会）	議員研修会（大分市）	見舞い（湯布院町役場）	湯布院集中豪雨災害見舞い（湯布院町役場）	玖珠郡畜産品評会	議会運営委員会	宮崎県高原町議会視察来町	九重町消防団退団者感謝状贈呈式	全員協議会

9日 「九重ふるさと自然学校開校準備室」開設式

私の一般質問

9月22日に7名が質問しました。
質問と答弁の内容を要約してお知らせします。

個人情報は守れるか

町長／改善案、検討する



梅木 征治

問
納税組合は税

金の収納率を高め、
制度としては、役

割を果たしてきた。

振替制度が普及し

た今日、役割は終

えたと言う考え方

もある。又、個人

情報が守れるかと

言う問題、奨励金

が納税貯蓄組合法

に抵触しないか、
今後の対策どうす

る。

答 町として条例を見直し、納税組合が抱えている問題を研究を重ねて納税率を下げない方法で改善出来るか、今後検討したい。



納税組合組織のあり方が検討されている



大石光則



災害復旧進捗状況は

町長／本年中に仮設を予定



被害を受けた、県道飯田高原中村線と野上簡易水道送水管

問 県道飯田高原中村線は、大雨による災害、又14号台風による二度目の災害が発生して復旧が遅れているが、進捗状況はどうなっているか。又、用地に未登記分があると聞くがどうか。観光道路であると同時に町民の生活道路である。仮設でもいいから、早急な対応が

答 九醉渓からサカ工路間については、本年中に仮設を終わらせ、泉水道路は観光シーズンまでに

必要である。泉水道路とも合わせて完成時期を示せ。又、飯田高原に通ずる野上交差点から越道間の用地交渉はどうなっているか。

井上里子



改正介護保険法施行 に向けて準備の重点は

町長／地域包括支援センターの設置、他

問 今年6月、介護保険法が大きく改正された。
（主な改正点）
介護予防サービスの創設
地域包括支援センターの設置
介護施設入所者の居住費及び食費の自己負担制の導入（今年10月より）
地域密着型サービス創設
地域支援事業の創設
その他数点

この改正介護保険法の来年4月施行（一部今年10月施行）に向けて、準備すべきことは多いが、どの部分に重点を置いて準備していくのか。

答 すでに新介護保険事業計画の策定を「九重介護を語る会」に諮りながら進めている。

介護保険給付費が、本町でも、年間1億円ずつ伸びていて、このままいくと介護保険特別会計が破綻するような状況である。今回の法改正では、保険給付の抑制と介護予防が重視されている。介護予防システムの根拠をなすものとして、地



デイサービスでの体操

問 新介護保険事業計画の作成は、大部分が専門業者に委託されることになつてきているが、大部分を

正内容を説明したリーフレットを全世帯に配布することであるが、リーフレットの配布だけではなく住民への説明会を持つことが必要ではないか。

来年度改定の介護保険料は

問 第1号保険料（65歳以上が年金から納入している保険料）は、3年ごとに見直されるが、現在本町の第1号保険料基準額（第3段階）の月額は、約3千3百円で、全国平均と同じである。第3期（18年度～20年度）の保険料について、全国平均は、現行法による試算では4千3百円、改正法による試算では3千9百円のことである。

答 今回の制度改定で、介護予防給付等によって、介護報酬単価等は多少抑えられると考えているが、改定保険料が上がるのには答えかねる。ひょっとすれば、4千円ぐらいになるのではないかといふ程度である。

本町も来年度改定の第3期保険料をできるだけ抑えなければならないが、町として、どの程度に見込んでいるのか。



竹尾允文



ブルーベリーの現状と今後

町長／順調に収量伸びている

問 本年からブルーベリーの出荷が本格的に始まつたが、今年の成果はどうであったか。また来年度からは出荷量が年々増えるが販路の開拓等はでいているのか、生の果実の出荷だけでは余ってしまうのではないかと不安に思っている農家が多いが、加工品の研究開発等はどのくらい進んでいるのか、大がかりな加工となると補助を出して加工所をということになると思うがお尋ねしたい。

答 今年の生産量は、2,111キロで、平均単価100グラム238・6円だった。平成24年の見込みは、12万1,440キロを見込んでいた。出荷は福岡大同青果と別府青果に絞っている。将来は、佐世保青果への出荷も考えている。

加工用についても、八鹿さん等多く申し出がある。当初は加工場を検討していたが、今は、1年間使う分の冷凍施設と体験施設を考えている。



収穫後のブルーベリー樹

問 65歳以上の方及び60歳以上の心臓、腎臓、呼吸器等の障害を有する方には、補助があり自己負担1,000円で接種できることは、とても効果的である。町独自で町民全員に助成をと思うが、せめて乳幼児他の接種希望者には助成をしていく施策はとれないと

答 予防接種法におけるインフルエンザは乙類疾病として、65歳以上の高齢者に対して、重症化防止及び蔓延予防のため、2,500円を補助している。乳幼児と小学生・中学生について、高齢者ほど重篤化しない、又接種そのものが果たして有効なのかという議論もあり、費用対価の面からも現在の高齢者のみの補助とすることを考えている。

問 地区集会所は、建築時には補助金及び地区負担金で建設されるが、その後のメンテナンスは、その地区で行っている。小さな修理ならその地区でまかなえるが、大がかりな費用のかかる修理はなかなかできかねる状態で、老朽化した集会所の改修費等に補助金を出せないか。

答 集会所の管理運営については、建設時点で当該地区の行政区に委託していく、集会所の床の張り替えや瓦の上げ替え等については、補助金等町から出していない。自立を目指したまちづくりを進めていかなければならぬ。積み立てをし、自分たちでやっていただきたいと思う。



予防接種を受ける乳幼児

予防接種に助成を

今後も高齢者のみとします

問 本年からブルーベリーの出荷が本格的に始まつたが、今年の成果はどうであったか。また来年度からは出荷量が年々増えるが販路の開拓等はでいているのか、生の果実の出荷だけでは余ってしまふのではないかと不安に思っている農家が多いが、加工品の研究開発等はどのくらい進んでいるのか、大がかりな加工となると補助を出して加工所をということになると思うがお尋ねしたい。

答 今年の生産量は、2,111キロで、平均単価100グラム238・6円だった。平成24年の見込みは、12万1,440キロを見込んでいた。出荷は福岡大同青果と別府青果に絞っている。将来は、佐世保青果への出荷も考えている。

加工用についても、八鹿さん等多く申し出がある。当初は加工場を検討していたが、今は、1年間使う分の冷凍施設と体験施設を考えている。

問 地区集会所は、建築時には補助金及び地区負担金で建設されるが、その後のメンテナンスは、その地区で行っている。小さな修理ならその地区でまかなえるが、大がかりな費用のかかる修理はなかなかできかねる状態で、老朽化した集会所の改修費等に補助金を出せないか。

答 集会所の管理運営については、建設時点で当該地区の行政区に委託していく、集会所の床の張り替えや瓦の上げ替え等については、補助金等町から出していない。自立を目指したまちづくりを進めていかなければならぬ。積み立てをし、自分たちでやっていただきたいと思う。

佐藤博美



公共工事入札・競争あるのか？

町長／今後の検討課題



公共工事、九重町の入札箱



問 平成16年度の公共工事の入札が113件で約10億円の金額だが、予定価格に対する落札率は97・13%。その中で53件が99%～100%の間の落札だが本当の競争がされているのか。長野県は田中知事になつて入札制度の改革をして、1年間で92・8%から75・6%まで落札率が落ちた。

答 地元でできるものは地元という事を頭に置き、指名競争入札を行つている。予定価格の事前公表も含めて、今後の検討課題として引き続き議論していくたい。

問 原木椎茸の中でも特に生椎茸は菌床椎茸の過剰生産で、今後の2～3年が産地として残るか否かの瀬戸際である。今までの種こま助成か、これに代わる支援策はないか。

答 地元でできるものは地元という事を頭に置き、指名競争入札を行つている。予定価格の事前公表も含めて、今後の検討課題として引き続き議論していくたい。

問 原木椎茸の中でも特に生椎茸は菌床椎茸の過剰生産で、今後の2～3年が産地として残るか否かの瀬戸際である。今までの種こま助成か、これに代わる支援策はないか。

答 大分県も10月1日から完全有機、減農薬栽培（5割削減、3割削減）の農産物の認証制度を施行する。これを活用した形で推進していきたい。又、本物の有機農産物については、セブンイレブンの市場にのせて行きたいと話をしている。

来年の自然学校の開校までに体制が整うように協議をしていきたい。

問 今、玖珠市場の子牛価格は全国でも最下位に近い単価である。今後アメリカからの牛肉輸入が始まつた時、生産者が残れる様にするために県・町・農協一体となつた指導機関の組織を、又誰でも増頭できるような畜舎

答 玖珠郡は町・農協、その他の指導機関が全部集まつた連絡調整会議を毎月行つており、県下ナンバーワンの畜産組織である。リース事業は、県下でも取り組んでいる農協もあるので希望があれば検討したい。

答 玖珠郡は町・農協、その他の指導機関が全部集まつた連絡調整会議を毎月行つており、県下ナンバーワンの畜産組織である。リース事業は、県下でも取り組んでいる農協もあるので希望があれば検討したい。



スタンチョンで多頭飼育の畜舎

江 藤 一 幸



防災士の養成目指せ

町長／前向きに取り組む

答 職場に防災士を育てるというのには、今日の自治体で少しづつ広がっている。早い時期にそういう取り組みをしたいと考えている。携帯電話については、そういうことが出来ればやらなければいけないと思っている。

答 知識として防災士の資格取得を進めたらどうか。又、土砂降りの雨の時は、防災無線は聞こえない、携帯電話のメールで、町にアクセスしたら情報が取り出せるようにしたらどうか。



危険橋梁に指定されている生竜橋（増水時の様子）

問 7月10日の集中豪雨後、観光客が減少したため、町は、観光協会と一緒に「九重町の観光は大丈夫だ」キャラバンを行った。

今後、想定外の災害に対してホテルや旅館等は、お客様の生命を守る機敏な対応のための知識として防災士の資格取得を進めたらどうか。又、土砂降りの雨の時は、防災無線は聞こえない、携帯電話のメールで、町にアクセスしたら情報が取り出せるようにしたらどうか。

答 平成11年度にコンサルに36橋について調査委託し、生竜橋と柚木橋が危険であるAランクに指定されている。ご指摘をいただいた生竜橋は、補償関係で難しい点があるが、地元、土木と協議中で結論が出ていない状況である。

問 危険橋梁は、町内にどのくらいあるのか、生竜橋は、築50年、町も危険橋ということで、過去予算をつけたが、事情がありそのままになっている。今回、県が河川改修と同時に橋の架け替えの青写真が出来たと聞くが、色々と課題もあるが一つ一つ克服して、前向きに県と協議していただきたい。

県と協議中



定員に対して2/3在籍数の玖珠農高

玖珠郡の高校教育どうする

問 現在、玖珠高は、定員320名、在籍213名。

森高は、480名の定員に459名が在籍。

県教委の再編計画（プラン）では、どちらも将来単独での存続は難しい。

県からの再編プラン提案の前に、玖珠教委と郡の高校教育についての具体案を県へ提案したらどうか。

高校再編議論、今から

答 日田玖珠は、高校改革の推進計画に今のところ入っていない。再編計画が実際に動き出していない段階なので、討議はしていないが、遅くならない時期に、両町、PTA等々と相談し、県教委に働きかけをしていきたいと思う。

小川克己



想定外災害対策の整備強化を

町長／早急に整備したい

答 想定を超える災害発生については、今回改めて恐ろしい思いを実感した。

大洪水対策、台風対策、地震対策等に防災計画はあるものの、今後さらに

づくりが必要と思われる。早急に想定を超える災害の対策整備を図るべきと思うが、その対策は。

又、被災者に対する独自の支援策も検討すべきと思うがその考えは。

さらに、災害対策や防犯を含めた地域防災組織等結成することも急務と思うがその対応は。

総合的な防災システム

づくりが必要と思われる。早急に想定を超える災害の対策整備を図るべきと思うが、その対策は。

中山間地域の本町は豪雨による災害や土石流災害、土砂崩壊が十分考えられる。又、大地震も想定される。

集中豪雨、死者が3名出た。台風災害も各地で被害が発生したが、今後においても異常気象等に伴い想定を超える災害の発生が予想される。

中山間地域の本町は豪雨による災害や土石流災害、土砂崩壊が十分考えられる。又、大地震も想定される。

答 想定を超える災害発生については、今回改めて恐ろしい思いを実感した。

大洪水対策、台風対策、地震対策等に防災計画はあるものの、今後さらに

精査をし、見直し部分もあることから早急に対策を講ずることとした。

災害が同時発生した場合のこと等も含めて対策強化を図りたい。

被災者に対する支援に

については、今回の災害を通じて痛切に感じたが、個人の財産をどこまで支援できるか等、難しい問題も多い。国・県では被災者生活再建支援法があり、支援金制度があるが、

町としては必要性は感じるものの現状では厳しい状況である。全体的な体制強化を検討したい。

地域防災組織については、ご指摘のように早急に防犯を含めた組織をどう作っていくか区長会と相談し、一日も早く防災組織結成に向け努力したい。



7月10日の地蔵原の豪雨災害

地域再生事業債で約5億円

答 地域再生事業債については、交付税措置はあるが金額がはつきりしていないのが実情で、基準財政需用額に算入するから交付税措置はしていませんというのが国の言い分のようですが、中身が見えにくいし、期待しているような額ではないと思



吊り橋工事、中村エリアの主塔部分

大吊り橋建設の財源目途は

鳴子川渓谷及び周辺整備事業は、昨年本体工事費の財源の主となる過疎債が年度途中で打ち切れ苦慮した。県は代替として地域再生事業債を斡旋したが、補助率等が

問

問

鳴子川渓谷及び周辺整備事業は、昨年本体工事費の財源の主となる過疎債が年度途中で打ち切れ苦慮した。県は代替として地域再生事業債を

が、実態をお聞きしたい。

さらに、今後起債を含む財源確保の目途はついているのか伺いたい。

不透明だった本年7月には確定すると言っていた

が、実態をお聞きしたい。

さらに、今後起債を含む財源確保の目途はついているのか伺いたい。

未来へ

南山田（桐木三）

吉光マリアさん



九重町に来て6年目、季節にもなれ地域の人達とも仲良く暮らしています。九重町は良い所がたくさんあります。観光客も毎年たくさん来ていました。山があり川もあり、おいしい空気と毎日を過ごしています。自然に恵まれていて、すごく嬉しいと思います。私の住む南山田桐木地区は、毎年村祭りを行っています。いろんなねぎやパフォーマンスを自分達で考えて楽しくやっています。毎年やるのは大変だと思いませんけど、地区の人達みんなの力と才能を合わせて毎年良い祭りが出来て思っています。町民、議会、



毎年大盛況の桐木地区の秋祭り

九重の こども達へ

東飯田（川上二）

小幡 邦代さん



九重町も合併せずに自分の力で町づくりの道を進むことに決定しました。

みんなの力と才能を合わせてやれば、何でも出来ると思います。

九重町に対してもメリットあります。だからこそ、九重町と合併することは決まりました。九重町に対するメリットあります。『自律の町づくり』は出来ないことはないと私は思っています。町民、議会、

わたしの ひとこと

私は、ここ数年来東飯田地区青少年健全育成協議会に関わっています。毎年いろんなこども達に出会います。この中で、九重少年自然の家でのリーダー研修があり、おにぎり山に登る事があります。活発な子は先頭を切ってどんどん登つて行ってしまいます。ある時、小柄な子が元気を出し過ぎたのでしよう。ゼーゼー息をしながら立ち止まっているのに追い付きました。すると、最後尾を登っていた

2人の女の子がリュックから水筒を出し、遅れるのも気にせずしばらく付き添い、また励ましたながら登り始めました。

※九重少年自然の家は、年度より九重青少年の家となっています。



ジュニアリーダーの研修

人はそれぞれいろいろな特性を持って生まれてきていま

す。元気な子、素直な子、優しい子……。このよう

な次世代を担うこども達の育つこの九重の地で、大人になつても安心して暮らして行けるような職場や環境を整備して行けたらと願っています。また年々減少していくこども達を地域全体で育てて行きたいと思います。こどもができるだけ同じ目標に立ちながら……。

麻生 盛高



地方分権 に思う

国と地方は対等の関係、自己決定自己責任。こうした地方分権改革はどこまで進むかはこれからが正念場、三位一体改革はその判断材料として重要な国地方を合わせた借金は1千兆円、今後も増え続けると言われている。

この状況の中

議員リレー

随想

41

で、地方は本当に元気になれるのだろうか。

分権思想は確実に広がりを見せており、国県の行政事務が地方に移管されつつある。しかし、財源を伴わない分権では、地方は負担のみが増大する恐れすらある。その一つが総合型地域スポーツクラブである。役場で説明

会があつたが、このクラブは地域住民による自主的、自立的な運営を目指すもので、正に分権の理念にかなつたものである。問題は国県の財政的な支援がないということ、国のスポーツ振興計画では平成22年までに全国の市町村に最低一つは設立し、将来は全ての中学校

校区に設立する、やっぱり口は出しが、金は出さない国は、分権をどのようにとらえていけるのだろうか。

市町村が一律画一化で町の力が低下する中での、今後を担う地域リーダーの人材育成を支援しながら民間活力を生み出す土壤作りが必要となろう。

S・U



こんな町にしてほしい 自慢の九重町を未来まで

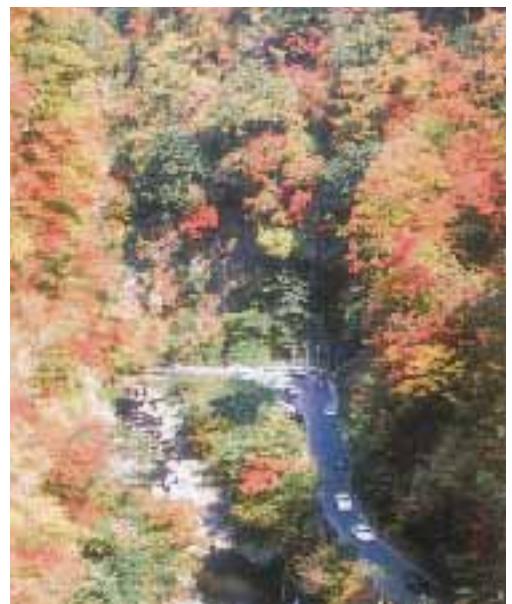
野上小学校6年

梅木久美子さん



もうすぐ紅葉の季節です。赤や黄色の葉がとてもきれいです。

九重町も紅葉がきれいで、私も大好きです。毎年、紅葉の季節には、テレビで九重町の紅葉が出ているのを見ます。紅葉がきれいなのは、この九重町が、自然に満ちあふれているから



だと思います。そうではないと、このような紅葉はないと思います。この紅葉がいつまでも

続く、自然豊かな九重町であつてほしいと思います。でも、思うだけでは、このきれいな

自然は、守られないと思いません。なので、ゴミが落ちていたら拾う。ゴミを捨てない。など

の、身近な所からしていけば、この自然は守られると思います。

私は、この九重町が、大好きです。紅葉がきれい、自然に満ちている、このような九重町で育った私は、幸せだと思います。これからも美しい九重町、自慢の九重町を、今までずっととずっと残してほしいです。

九重町が自律の町づくりを宣言して二年が過ぎ、新しい町が輝き続けるために九重町自律推進計画が、新しく町民へ示される。

豊かさと活力を生むまちづくりを目指し、行政改革で簡素で効率的な行政運営や住民との協働で築く町づくり等、目標に向かってさらなる努力が問われる事となり、一つずつ自律していくなくてはならない。

